

8月の吾も紅の目標は「夏を楽しむ」。

例年ですが、職員が分かれて『盆踊り』『スイカ割り』『川遊び』『花火』『そうめん流し』『カキ氷』という行事を一ヶ月のどこかで実施します。この「ひとり一担当制」は今までのところとても良い効果を挙げています。それぞれが、一生懸命に計画を立て準備から実行まで取り組むからです。

盆踊りでは、地域の祭りに参加。「あら！Nさん！」友人と久しぶりの再会を果たし、住民に混じって湯山音頭を見事に踊るNさん。認知症になるまで、祭りに参加していたそうです。

スイカ割りでは全員が目隠しして挑戦。棒を振り上げ思い切り叩く人、はじめに棒でスイカのありかを探って慎重に叩きに行く人、などそれぞれの個性が出ました。御主人を竹の棒で追い回していたというAさん。容赦ない叩きっぷりで、さぞ痛かっただろうな～と御主人に同情の声が集まりました。

川遊びでは、暑い日だったため多くの人が泳いでおり、水着ギャルに目を楽しませ（男性スタッフ）たようです。水に入った人もおり、帰りにソフトクリームを食べみなさん楽しませていました。

そうめん流しでは、組み立てる段階からいそいそと手伝ってくれる利用者さんもいて、かたや薬味を切ってくれる人、と大活躍だったようです。普段はよろよろと歩行器を使ってようやく歩いている方が、そうめんを流し始めるといっせいに立ち上がり我先にと食べ始めた姿に、職員一同目を見張りました。やっぱり、やろうと思えば何でもできるんだな～

花火は夕食後、外に出て行きます。お年寄り（特に認知症の）に火を使わせることを遠ざける事業所もあるでしょう。が、前理事長の頃から花火は夏の風物詩であり、ともの家では日常的に行われています。ぱちぱちとはぜる音や、鮮やかな色を、お年よりは静かに眺めます。「これは駄目」「アレはだめ」と最初から決め付けずに、一緒に楽しむ方法を考えればいいだけ。私たちの想像を超えはるかにお年よりは多才で広い懐を持っています。

各自が思い出を胸に刻んだひと夏の景色でした。

